

別 紙

第62回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 4 分科会	演題番号	401
題 名	河川底質中マイクロプラスチック調査方法の検討		
所 属	環境衛生科学研究所		
氏 名	○竹下 由布子、羽田 好孝、長倉 美由紀、綿野 哲寛		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>プラスチックはその有用な特性から現代生活に必要不可欠であり日々大量に使用されているが、その一部は環境中に流出している。環境中のプラスチックは紫外線や波の作用などによって次第に細かくなり、特に5mm以下にまで細かくなった粒子はマイクロプラスチック（以下MP）と呼ばれている。MPは環境中の有害物質を吸着したり、製品が元から含有している添加物が滲出したりすることが分かっており、生態系への影響が懸念され、世界的に問題になっている。</p> <p>これまで当研究所では河川表層水のMP調査を実施してきたが、河川表層水から検出されるMPは比重が水より小さいポリエチレンやポリプロピレン、発泡スチロールが9割以上を占め比重の大きい材質の粒子はごく少数であり、比重が水より大きなMP粒子の多くは川底に沈んでいるものと推察された。海外で行われた調査では、河川底質には表層水と比較して多様な種類のMPが検出され、個数密度は著しく多かったとの報告もある。これらのことから、河川では多くのMPが底質中に存在していると考えられ、河川底質中のMPの分布を調査することは、MP発生源の推定やMPの河川内動態推定に有効であると考えられる。</p> <p>しかし、底質中MPは国内での報告が少なく、調査方法も標準化されていない。今回、河川底質中MP調査方法を検討したのでその結果を報告する。</p>		